



の世界標準とは



ヘルメットの

外觀となる帽体部

は、安全性能と直結し、製品

重量をも左右する重要な部分です。

アライの帽体開発は、世界で最も厳しいとされるスネル規格に余裕を持ってパスするために、独自のアライ規格を設定し、その厳しい条件の下で、素材、樹脂、製法を進化させてきました。そうした中で生まれたのが、剛性、弾性ともに優れ、しかも軽量化をも追求したSuper cloc&cluc構造の帽体です。

アライは、アメリカ、ヨーロッパを初めとして、世界各国で販売されています。輸出仕様のものは、欧米の方との基本的な頭の形状の

違いから、内装

形状などは大きく異なりますが、規格ともなるSuper cloc&cluc構造の帽体は、世界中どこでも同じ仕様のものが使用されています。

ところで、ヘルメットの規格は、各国で異なるものが定められています。アメリカ、ヨーロッパ連合、英国その他、各国とも微妙にその方向付けが異なっています。

オートバイ文化という面では歴史あるヨーロッパなどは、ECE22の規格に適合しないものは販売してはならないので、ハータイプは、バイク用として認められないなど、厳しい側面もあります。その一方、ヨーロッパ内のメーカーの多くが、ポ

リカーボ

やABSなど熱可塑性樹脂を使用するメーカーが多いため、帽体の強度に関しては、多くを求めていないという甘い面も見受けられます。

アライも、ヨーロッパ向けには、日本やアメリカ向けのスネル規格品ではなくECE22規格品として販売しています。もしアライが、ECE22規格を適合させるのみならば、帽体を薄くすることができるので、現在使用しているSuper clocよりも200g程度、軽いものを作ることにも出来ます。でも、数多くの事故例の検証や、アライを信頼して使っているレーサーの転倒例を見ると、売りやすいからといって、帽体

をヤワにして軽量化することは、とても出来ません。あえて、ヨーロッパ向けにもスネル規格品で使用するのと同じSuper cloc&clucを使用しています。

をヤワにして軽量化することは、とても出来ません。

このようなことからヨーロッパで販売されているアライ製品は、決して軽いわけではありません。安全性に関しては、アライは頑固なメーカーであるという評価を、ヨーロッパのユーザーからも多数得ています。

アライは、帽体構造だけでなく、フォームの形状やリブからも、剛性を追い求めています。同じような強度を持たせようとすると、アライ並みの重量に押さえることは、難しいようです。だからこそ、自信を持って、世界標準ともなる同仕様のSuper cloc&clucをお届けすることが出来るのです。